

高校英語サンプル問題

吉備システム

[31-25-71-50-0003]

- 1 (1) to make → making (2) to ride → riding (3) to snow → snowing (4) to smoke → smoking
 (5) ○ (6) ○

[解説] 動名詞と不定詞(名詞的用法)はどちらも動詞の目的語として用いられる。動詞には、どちらか一方のみを目的語にとるもの、両方を目的語にとるものなどがある。それぞれの主な例は以下の通り。

1. 動名詞のみを目的語にとる動詞

avoid(～を避ける), deny(～を否定する), enjoy(～を楽しむ), finish(～を終える), give up(～をやめる), mind(～をいやがる), practice(～を練習する), put off(～を延期する), stop(～をやめる)など。

2. 不定詞のみを目的語にとる動詞

agree(～に同意する), ask(～を頼む), decide(～を決める), expect(～を期待する), hope(～を望む), mean(～のつもりだ), pretend(～のふりをする), promise(～を約束する), wish(～したいと思う)など。

3. 動名詞と不定詞の両方を目的語にとる動詞

- ・目的語が動名詞でも不定詞でも意味がほとんど同じ動詞

begin(～を始める), continue(～を続ける), hate(～を嫌う), like(～を好む), start(～を始める)など。

- ・目的語が動名詞の場合と不定詞の場合で意味が異なる動詞

forget(～を忘れる), remember(～を覚えている), regret(～を後悔する)など。

- (1) 「彼はいつもどんな約束もしようとしない。」 (2) 「トムは馬に乗る練習をしたことがあった。」
 (3) 「雪がやんだので、子供たちは外に出て雪だるまを作った。」 《stop to ～》は「～するために(立ち)止まる」という意味の不定詞の副詞的用法なので、ここでは不適。
 (4) 「1日ではたばこをやめるのは難しい。」
 (5) 「母は私に部屋を掃除するように命令した。」 《order+O+to不定詞》「Oに～するように命令する」
 (6) 「私はいつかローマを訪れたい。」 《would like+to不定詞》「～したい」

高校英語サンプル問題

吉備システム

[31-25-71-53-0004]

- 2 (1) A ② B ① (2) ① (3) A ③ B ① (4) ③ (5) ① (6) ①

[解説] 動名詞と不定詞(名詞的用法)の両方を目的語にとる動詞には、動名詞でも不定詞でも意味がほとんど同じものと、動名詞と不定詞で意味が異なるものがある。ここでは動名詞と不定詞で意味が異なる動詞(forget, remember, regret, try など)を主に扱う。

・forget -ing (～したことを忘れる) ・forget to ～ (～することを忘れる) ・remember -ing (～したことを覚えている) ・remember to ～ (忘れずに～する) ・regret -ing (～したことを後悔する) ・regret to ～ (～するのを残念に思う) ・try -ing ((試しに)～してみる) ・try to ～ (～しようと努める)

forget, remember, regret は目的語に動名詞をとる場合は「すでにしたこと」という述語動詞の時制より前の「時」を表し、不定詞をとる場合は「これからすること」という述語動詞の時制より後の「時」を表す。

try は目的語に動名詞をとる場合は「試しにやってみる」という意味でその行為が実行されたことを表し、不定詞の場合は「しようと努力する」という意味で、その行為ができたかどうかは文脈による。

- (1) 「運転手は間に合って止まろうとしたが、お年寄りをはねるのを避けられなかった。」 avoid は動名詞のみを目的語にとる動詞。
- (2) 「学校へ行く途中でこの手紙を出すのを忘れないでね。」
- (3) 「夕方彼がバイオリンを弾くのが聞こえてきたことを私は覚えている。」 《hear+O+動詞の原形》で「Oが～するのが聞こえる」の意味になる。
- (4) 「雨がやんだので、彼は外出した。」 《stop -ing》は「～することをやめる」という意味。《stop to ～》は「～するために(立ち)止まる」という意味の不定詞の副詞的用法なので、ここでは不適。
- (5) 「静かにしなさい。静かにすると私に約束したことを忘れたのですか。」
- (6) 「父は健康のために、毎日残業することをやめた。」 (4)を参照。

[31-27-71-51-0004]

- 3 (1) 彼はその奇妙な物音におびえずにはいられなかった。
 (2) この100年間に文明社会の人間の環境が以前のどの時代よりも急進的に変化したことは否定できない。
 (3) ジムはバスを降りるとき、滑って足首をねんざした。 (4) 村に着くとすぐにその老兵は倒れて死んでしまった。
 (5) 外国語を学ぶのはたいへん難しいことだが、やってみる価値はある。

[解説] 動名詞を用いた慣用表現はよく出題されるので注意して覚えよう。

- (1) 《cannot help -ing》で「～せざるをえない」という意味を表す。《being+過去分詞》は動名詞の受動態。
- (2) 《There is no -ing》「～することはできない」
- (3) 《in -ing》で「～しているあいだに[～する時に]」という意味を表す。《get off》「～を降りる」
- (4) 《on -ing》「～するとすぐに、～すると」
- (5) 文頭の動名詞 learning は文の主語。《worth -ing》「～する価値がある」